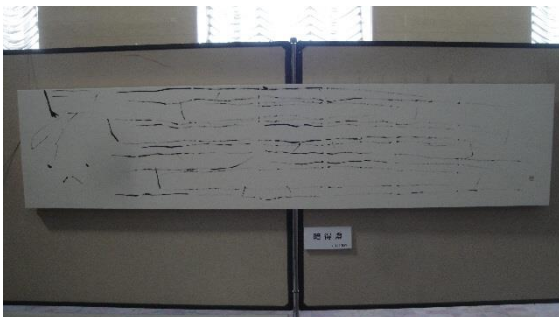


リーデンローズ・アカデミー

## 『大楽華雪 舞台芸術としての書』大成功

■当ホームページ上においてお知らせの通り、「大楽華雪 舞台芸術としての書」の公演が、さる5月27日（金）午後7時から、福山市の『ふくやま芸術文化ホール リーデンローズ大ホール』において行われた。

前日の夕方から同ホールのステージにおいて、最終リハーサルが行われるとともに、入場口内のロビーには、縦が約5メートル・横が約2メートルの大作『不退転』をはじめ『無依』『暗得燈』『探』『ゆめ』の計5作品が観客の皆さん一人一人をお迎えするために展示された。



公演当日は、午後 3 時には大楽会長をはじめ一華会側スタッフ 16 人が同ホールに集合。それぞれの持ち場で、開場時刻まで最終確認の作業を進めていった。その間、揮毫者の大楽会長は、静かに自分自身と対峙するかのごとく過ごしていたのが印象的であった。

午後 6 時 15 分の開場時刻を前に、入場口前にはすでに 300 人ほどの方が列をなし、開場を今か今かと待っていた。

定刻、会場の扉があくとともに、一斉に観客が入場。展示された作品が一人一人の観客を出迎える。その作品を前にして多くの人が立ち止まる。これから始まる、書と音楽のコラボレーションという、例を見ない公演に期待を膨らませながら大ホール内へと足を運ぶ。



開演 5 分前の段階で 1200 人以上の入場者を数えていた。ステージわきでは、これから始まる異次元・異空間のステージに向けて、出演者の緊張感が高まる。

午後 7 時の開演とともに、コントラバス奏者でリーデンローズ館長の溝入氏がステージに立ち、大楽会長を迎え入れる。



書作 1『無依』、音楽は溝入敬三氏のコントラバスによる「トリプリシティ」。暗転していたステージの溝入氏に青白いライトがあたる。楽曲のスタートとともに、大楽会長にもライトが。しばらく音に包まれながら、書作のイメージを高めているのか微動だにしない会長。おもむろにサポートの山田翠香さんから、墨をたっぷり含ませた、約 20 キロもある馬の毛の大筆を受け取り、乾坤一擲、丈六サイズ（縦約 5 メートル・横約 2 メートル）の中国画宣紙に打ち付け、筆を走らせる。そのエネルギッシュな姿からは、85 歳という年齢が考えられない。10 分弱の演奏の終わりと雅印を押すタイミングが、計ったようにそろってのエンディング。1300 人ほどの観客から割れんばかりの拍手の嵐。

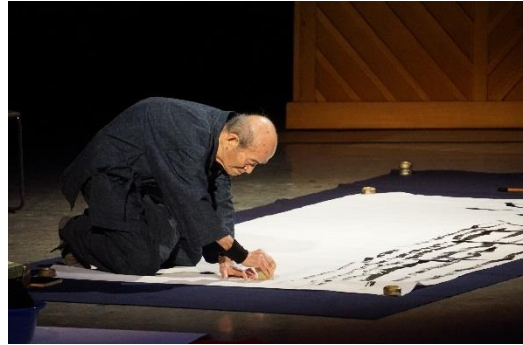






書作2『無作』、音楽は落梟子氏の電子音響音楽「芦」。演奏前に落氏が会長の右手首にリストバンドをし、2センチメートルほどの発信機を取り付ける。書作時の腕の動きを音に変換し、それに落氏がさらに音を加えて演奏するという、これまた前例のほとんどないステージ。丈二サイズ（縦約1.5メートル・横約3.5メートル）の中国画宣紙に羊毛の筆で横線が伸びるとともに、墨の潤滑の妙が冴える。紙面下部に広がる大きな空間がまた美しい。





15分の休憩をはさみ、書作3『啐啄』、音楽は溝入氏の「空間の生成」。2人のバレエとも共演するという特殊な空間が作り出された。これも書作2と同様に丈二サイズ（縦約1.5メートル・横約3.5メートル）の中国画宣紙に羊毛の更に細い筆で、繊細な線による作品が書きあげられた。観客からの鳴りやまない拍手が続いていた。







書作3の終了後、観客の中から希望する方に、先ほどまで異空間だったステージに上がってもらい、大楽会長の書いた3作品を間近で見ることのできる見学会が開催された。約350人の観客が、順次ステージに上がり、溝入館長と大楽会長の作品解説に耳を傾けながら、作品を目にし、その迫りに圧倒されていた。



午後 8 時 40 分の終演予定時刻を 5 分ほど過ぎたとき、全出演者によるカーテンコールがあり、大成功の中、記念すべき公演が終了した。



会場を後にする観客の皆さんが口々に「不思議な空間だった」「幻想的な演出の中、大楽先生と他の演者だけでなく、客席までが一体化していた」「素敵な時間があっという間に過ぎてしまった」などと話す声が印象的であった。



2012 年の秋、『書業 60 年大楽華雪の世界 日本展』が開かれた東京銀座のセントラル美術館を訪れた溝入敬三氏の『素晴らしい。この書と音楽がコラボできないものか・・・』の一言から動き始めた『大楽華雪 舞台芸術としての書』がここに幕を下ろした。

(『大楽華雪 舞台芸術としての書』コーディネーター：大楽悠雪 記)

### 【一華会スタッフ紹介】 書作：大楽華雪

- コーディネーター : 大楽悠雪
- ステージスタッフ : 山田翠香・赤澤智恵子・上田幸加・三宅華邦・千葉幽篁  
片山美鈴・児玉恒風・島田妙子・下垣内裕子
- ロビースタッフ : 野村雪陽・高橋光恵・寺田和雪・林桜華
- 写真・ビデオスタッフ : 藤井利江・西原美瑠・寺田和雪